

一般質問

市議会定例会では、提出された議案を審議するほかに、一般質問として、各議員が市政全般に対して質問することができます。今回は26人38件の一般質問がありました。(他はその他の質問)

府中駅南側に
改札口の新設を—その2—

早期開設に向け京王電鉄に
強く要望を続けていく

相原 博議員 平成8年に府中駅南口第二地区再開発事業



▲府中駅構内

が完成し、17年2月には、第三地区再開発事業の完成が予定されており、府中駅の周辺も大きく変ぼうしている。この状況の中、駅南口利用者の利便性や、駅構内を円滑に利用できるよう、南口改札口の設置を願う立場から平成10年に一般質問をした。現在、第三地区の事業も順調に進んでいるが、改札口の設置は進んでいない。この問題を優先課題として、再開発事業が完成するまでには実現すべきと思うがどうか。

市長 南口改札口の開設は、利用者の利便性や駅周辺地区の商業活動等を考えると必要不可欠なものと思う。今後、開設に向け、京王電鉄株式会社に対し、強く要望していく。

犯罪のないまちの実現
そのビジョンは
市と市民の協働による
犯罪防止活動が不可欠

宮本 武蔵議員 新聞等による世論調査では、治安が悪化して、安心して住めないと感じている国民が増加している。この状況の中、国や都も安全・安心な生活を確保するため、各種の施策を展開している。本市においても府中市市民生活の安全確保に関する条例が、平成16年1月から施行されている。

そこで、野口市政第2期の公約の一つに「安全で快適に

ごみ減量リサイクル推進大会
その成果は

家庭ごみの分別等
ごみ減量の意識の高揚が図られた

高野 政男議員 地域ごみ対策推進員の意見交換会で、推進員の連携が必要との意見があったと聞く。自治会連合会でも、このことを重要課題としたが、推進員の選出は地域で差がある。未選出の地域から推進員を選出し、ごみ減量等に連携して取り組むことにより、市民協働の成果としてダストボックス収集方式を長く維持できると考える。

このような中、昨年11月に日ごろから思っている。そこで、市は先生の資質向上のために、どう取り組んでいるか聞きたい。また、意見交換の必要性の認識を一層深めたので、地域ごみ対策推進員の連携のための仕組みづくりに取り組んでいきたい。

府中っ子を育むための
先生の資質向上への取り組みは

研修会の実施や
副読本「郷土府中」等を活用

小野寺 淳議員 子供たちが成長し、ふるさと府中を思い起こし、府中で育つたという意識を世界で生かしていかせる。そんな子供たちになってほしいと願っている。

府中市学校教育プラン21に、府中を愛する府中の教員を育てようとするが、子供たちへの郷土愛や府中っ子を育てるためには、それを指導する教員の意識が大事であると、



駅周辺の自転車駐輪場
割引制度等導入の考えは

駐車場整備センターと調整し
早期実施に努めたい

手塚 歳久議員 駅周辺で、新たに設置を予定している自転車駐輪場を聞きたい。

また、市民から要望のある、利用料金の値下げや、割引制度等の早期導入について、市の考えを聞きたい。環境安全部長 新たに、中河原駅、府中本町駅、武蔵野台駅、分倍河原駅周辺への設置を予定している。



▲駅周辺の自転車駐輪場

また、割引制度の導入は、環境面からの自転車利用の促進や、市民サービスの向上などに有効と考えるので、(財)自転車駐車場整備センターと調整の上、早期に実施できるように努力していきたい。なお、利用料金の値下げは、稼働率の低い自転車駐輪場について、値下げに伴う利用率の向上が見込めるかどうかを考慮し、検討する必要がある

入学前の調査情報により
子供を偏見の目で見ることはないか
あつてはならないこと
研修等で学校へ指導している

村井 浩議員 市は入学前の子供たちの生活状況を調査しているが、幼い時から子供たちが選別され、差別につながるのではないかと懸念している。そこで、調査の情報の共有等が行き過ぎて学校が子供を偏見の目で見ることはないか。また、不登校の生徒に、生活指導主任会での情報の共有化等を図り支援していると聞くと、住基ネットでも市民が不安に感じている中、子供の個人情報を見だりに作つてはならないと思うがどうか。

また、不登校の原因等は個人によって異なり、その対応は子供の心情を把握して行わなければならないと考えます。また、不登校の原因等は個人によって異なり、その対応は子供の心情を把握して行わなければならないと考えます。また、不登校の原因等は個人によって異なり、その対応は子供の心情を把握して行わなければならないと考えます。

資源ごみのリサイクル
今後の市の基本的な考えは

販売店による収集、自主処理体制の
推進を求めていく

と考える。オンリーワンの公園づくりについて●教育委員会はなぜホームページを作成しないか

高野 律雄議員 市長の公約に、風格のあるまち、美しいまち等とある。他市がゴミ回収有料化へ移行する中、今後も市民の協力によって、ダストボックス方式を維持できたなら、それこそ風格ある市民が暮らすまちであり、美しいまちと言えると思う。それには、今後の4年間が試金石になると考える。また、容器包装リサイクル法完全実施で、拡大生産者責任により、資源回収拠点が少なくなつたと思うが、他自治体では、商店街の協力で資源回収率が向上し、商店街の活性化につながる事例もある。

そこで、今後の資源ごみのリサイクルの考え方は、環境安全部長 資源循環型社会を目指す事業者の責務として、販売店による収集、自主処理体制の推進を求めていく。また、市民によるごみの分別を徹底し、自治体に偏重している費用負担の見直し等を国に求めていく。